

妊娠中の感冒



毎年冬になるとインフルエンザが流行っています。妊娠していても、インフルエンザや感冒（風邪に似た症状）にかかることがあります。鼻水や咳がでてでも軽い程度なら、温かくしていれば十分です。ひどくなってくると薬の助けが必要となってきます。症状に応じて咳止め、解熱剤などの薬をのむことが、体力を保つのに有効です。全ての薬が赤ちゃんに有害とは限りません。

妊娠中の風邪に対しては、注意していただきたい症状があります。それは(1)お腹の張り、(2)出血、(3)リンパ節の腫れと湿疹です。軽い風邪でお腹の張りや出血が出現することはありません。ひどい咳が長く続くと子宮が刺激され、子宮筋が陣痛の時のように収縮することが稀にあります。それをお腹の張りと感じるのです。

首や耳の後ろのリンパ節の腫れと全身のジンマシンのような湿疹は、風疹かもしれません。妊娠の非常に早い時期に風疹にかかると、赤ちゃんに影響があることがあります。そのため私たちは妊娠の初期に、風疹に対する抗体が有るか無いかを検査しています。抗体があれば風疹の影響は考えなくてもよいのです。妊娠中の感冒はまず産婦人科医に相談するのが安全です。